

パリDAC通信(AAAを実行へ～生まれ変わる援助効果作業部会)

DAC援助効果作業部会が、AAAの実行に向けて生まれ変わろうとしています。

■6年目を迎えた援助効果作業部会

援助効果作業部会は、ドナー間協調を議論する「ドナー慣行作業部会」を母体として2003年に設立され、DACドナーのみならず、途上国や国際機関の政策決定者と援助実務者が援助効果向上に関する議題を議論する国際的なフォーラムとして、2005年には「援助効果向上のためのパリ宣言」を採択し、援助効果向上の推進に取り組んできました。

■パリ宣言の目標年は2010年

パリ宣言と、パリ宣言の取組み促進するために2008年に採択された「AAA(アクラ行動計画)」の目標年は2010年であり、またこの結果が報告される次回のハイレベルフォーラムは2011年に開催される予定です。AAAの中でも、「パリ宣言及びAAA実施のモニタリングを実施し、次回のハイレベルフォーラムに報告する」ことが援助効果作業部会に要請されており、援助効果向上の取組が折り返し地点を過ぎる中で、援助効果作業部会も節目を迎えています。

■4つの優先分野でパリ宣言とAAAの達成を支援

このような中、援助効果作業部会は今後2年の間に、特にAAAで取組みが促進されることとなった「オーナーシップと成果への説明責任」「カントリーシステムの活用」「透明で責任ある援助」「進捗の評価」という援助効果向上の4つの優先分野について、ドナーとパートナー国が2010年までにパリ宣言とAAAを達成するよう支援していくことが期待されており、4つの優先分野ごとのタスクチームが設置され、2名の共同議長のもとに具体的な作業が推進される予定です。

■拡大する援助効果作業部会のメンバーシップ

また、AAAを実行に移すために、援助効果作業部会では、メンバーシップをDACドナー、途上国、新興ドナー、国際機関、CSO等の5グループに拡大・整理し、共同議長・副議長を選出するほか、上記4つの優先分野のタスクチーム共同議長などからなる執行委員会も設置し、作業部会を年1回程度、執行委員会をより頻繁に開催することにより、より重層的に作業を推進していくことが予定されています。

4つの優先分野については、スイス及びタンザニア(オーナーシップと成果への説明責任)や、オランダ及びガーナ(カントリーシステムの活用)などの有志国が活動計画を詰めており、これらをもとに生まれ変わる援助効果作業部会の新しい姿は、3月に開催される作業部会会合において合意される予定です。